

「チャレンジカップ清水で学んだこと」

平成26年2月8日市議会議員大石直樹先生と会場となる清水ナショナルトレーニングセンター(以下トレセン)を視察しました。

トレセンの溝口敏夫所長は偶然にも私の親友の後輩であり、これまで数回食事をしたことのある元ウエイトリフティングオリンピック候補選手でした。

トレセンはその名の通り国際的に通用するアスリートから市民の健康促進を目的とした施設であり、催物(各種大会)などを開催する目的のものではないため、大規模な駐車場、観覧席、ウォーミングアップのできる場所、食事のできるスペースなどは皆無でした。正直、大会を行うには困難な場所でした。

その厳しい条件で大会が運営できるのか、その他の利用者に迷惑がかからないか、それだけが心配でしたが、大石直樹先生のご尽力による駐車場の確保(静岡市所有地)、溝口所長によるアップ場及び食事スペースの提供、など色々な方々にお世話になりました。

出来る限り多くの車が駐車できるよう、大会前週の6月15日に炎天下での草刈作業を行い、ゴミ袋60袋分の草を処分しました。竜南道場の海野師範、冷たい飲み物御ちそう様でした。山本麻里先輩、草刈お手伝い、ありがとうございました。清水南道場で大会出場する道場生のほとんどが手伝ってくれました。ご父兄のみなさんもありがとうございました。(手伝ってくれた道場生の7割が大会で入賞した事がうれしいです。)



「駐車場の草刈を終えて」

大会前日 6月21日の夕方から会場設営に来てくれた大石道場 70名の道場生・父兄のみなさんありがとうございました。宇都宮道場から**そのためだけ**に泊まりで来てくれた大柿先輩、ありがとうございました。設営の9割は、ものの30分で仕上がり、トレセンの方が驚いていました。



←前日準備の様様

大会当日、早朝より雨中で駐車場管理をしていただいた伏見先生、ありがとうございました。参加者全員での大会終了後の片付け、モップ作業まで手伝っていただき、ありがとうございました。

条件の厳しい場所での大会は、それ相応のプレッシャーもあり、思うようにいかない事が様々あります。ただ、そのことに対しご理解をいただき、当日は大きなトラブル・クレームもなく終われましたことは非常にうれしく思っております。溝口所長には多大なご迷惑をかけたと思いますが、大会終了後「全然、平気ですよ。」と笑顔で言ってくれました。

使いにくい会場、条件の悪い会場、大変勉強になりましたし、その分、多くの方々の協力を得られた事が身にしみました。

もし、私がこれに関わっていなかったら「こんな遠くの駐車場から歩くのか!」「靴箱もないのか!」「飯を食べる場所もないのか!」「準備体操もできない!」と思ったかもしれませんが、本大会を経験できたので、他の大会に行ってもそのような汚れた気持ちを持つてはいけない、という事を学びました。



「会場の片付けを終え、誰もいない会場で」

PS. 終了後のビール、いつも以上に最高においしかったです。

押忍 清水南道場 杉本龍哉